



■創刊号の目次

- 特別寄稿** 「EVAAニュース・レターの創刊号に寄せて」
理事長挨拶 「ニュース・レター創刊の挨拶」
お知らせ 「EVAAホームページのリニューアル報告」、「総会・定例会の報告」、「EVAAのまとめた冊子の紹介」、「定例会でのミニ・レクチャーの再開」、「寄付のお願い」

活動の報告(主な4つの事業別に分類しております)

- 情報の収集・提供事業
→ 今回は報告がありません
- 青年海外協力隊員への技術に関するサポート事業
→ 「隊員及び候補生の後方支援活動の報告」
- 国際交流及び国際協力に対する提言活動
→ 「イベントでの活動」
- 調査研究事業
→ 「エイズ VCT センターの調査報告」
「ペルー耐震アドベ住宅工事 モニタリング報告」

■EVAAニュース・レター創刊号に寄せて

この度、NPO法人「都市計画・建築関連OVの会(通称EVAA)」の活動を伝えることを趣旨とした「ニュース・レター」が創刊の運びとなりましたことを、こころよりお祝い申し上げます。都市計画・建築関連の青年海外協力隊員として開発途上国に派遣された経験を持つ方々が組織したEVAAは、同分野において国内外でボランティア活動を行う団体として1999年に設立されました。これまでにアジア、アフリカ諸国の公衆衛生に関する実態調査や、その改善への提言を行うとともに、現地に派遣される協力隊員への技術的な後方支援、また、「アフリカン・フェスタ」や「協力隊まつり」などのイベントでの広報・交流を行っており、近年、その活動はますます幅広いものとなっております。JICAは、2005年度のケニアに引き続き、2006年度はガーナにEVAAのメンバーを短期シニア海外ボランティアとして派遣し、エイズに対する自発的なカウンセリングと検査を実施する施設(通称VCTセンター)を訪れて、利用者の視点から施設の使いやすさや快適性に関する調査を実施し、改善への提言を行う任務に就いて頂きました。こうした、JICAと帰国隊員のOV会とのパートナーシップに基づいた活動は、青年海外協力隊をきっかけとした双方の組織の間に、新たな可能性を感じさせるものです。エンジニア集団としてのEVAAの今後の更なる活躍を期待するとともに、ニュース・レターが多くの人の目に触れ、開発途上国の現状、そして、そこにおけるボランティア活動の必要性を知って頂ける助けになることをお祈り申し上げます。

国際協力機構(JICA) 青年海外協力隊事務局 大塚正明

■EVAA ホームページのリニューアル報告

～見易さの向上と新たな情報提供～(濱野博)

1999年のEVAA設立当初から続けていましたホームページを2006年9月にリニューアルしました。大きな改善点として、設立から今まで続けてきた活動の様子を活動年表より簡単にご覧いただけるようになったこと、「愛・地球博展」や「世界のトイレ事情」、「エイズ VCT センター調査」などの主だった活動概要にメニュー画面から直接アクセスできるようになったことです。まだ至らないところはありますが、以前のホームページより格段に使いやすくなったと思います。またJICA地球ひろば(旧JOCV広尾訓練所)で定期的に行われている定例会や再開された勉強会(レクチャー)の情報・フェスティバルや学会などの各種イベント案内もリアルタイムに更新していきますので会員の皆様や今後入会を考えている皆様にも会の活動に積極的に参加していただければと思います。今後とも会員の皆様や隊員・隊員候補生の皆様に有益となりますよう情報発信を続けていきたいと思いますので、ご意見・ご要望・情報の提供がありましたらinfo@evaa-japan.orgへご連絡をお願いします。旧HP(<http://www.geocities.co.jp/Milkyway/8200/bbs.html>)から新HP(<http://www.evaa-japan.org/>)にURLが変更されていません。

■隊員及び候補生の後方支援活動の報告

～隊員への側面サポートと候補生との対話～(濱野博)

EVAAでは、余暇を利用して、誰もが行える支援活動を行っています。JOCV関連団体の中でも数少ない技術者集団としてEVAAは活動中の隊員を技術面でサポートをする方法を検討してきましたが、現在2つの活動を実施中です。

隊員候補生との対話(訓練所訪問)

「訓練中の隊員候補生を訪問し、交流を行う。また派遣中もEメール等で技術支援が可能であることを連絡する」「派遣回数4回/年×2ヶ所(駒ヶ根、二本松訓練所)各隊次2名を派遣」「訓練のない土曜日の夕方以降または日曜日の午後に2時間を目安に実施」「原則的に日帰り、交通費支給(ただし、個人で立替え、後日請求)」

活動中の隊員への側面サポート(ご自宅でも可)

「派遣中の隊員からの質疑をEメール等で受け付け、質疑内容により、ふさわしい経験や専門性をもつ会員からアドバイスを受け、対応する」
 現在までJOCV事務局の協力のもとH18-3次隊は駒ヶ根、H19-1から3次隊は駒ヶ根、二本松の両訓練所に会員各2名を派遣し、候補生との交流を行いました。活動中の隊員へのサポートも今後重視されることが予想されますので早急に体制を作るべく模索中です。こうした支援はJOCVでもなされていますが、EVAAは会員同士をネットワーク化することで、柔軟に隊員が相談に乗れる体制を作っていければと考えています。活動を通じて皆さん一人ひとりの貴重な知識や経験が次世代の隊員に受継がれ途上国で生かされていきます。そしてそれがEVAAの発展と活性化にもつながるものと思います。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。協力して下さる方はEVAAまたは谷(副理事長 k.p.tani@nifty.com)までご連絡を頂ければ幸いです。

■エイズVCTセンターの調査報告

～クライアントの立場からの施設の改善提案～(松村文雄)

EVAAのメンバーで建築設計に携わる人の多くは、クライアント(依頼者)の身になって建物を設計することを主な業務とし、技術を磨いております。こうしたクライアントの身になって考えるという姿勢から生まれた活動が、ケニアを対象としたVCT(Voluntary Counseling And Testing: 自発的なカウンセリングと検査)センターの調査でした。VCTセンターとはHIV(エイズ)の感染を検査・カウンセリングする施設で、現在はケニア全土に約800以上の施設があります。JICAシニア海外ボランティアとして本メンバー5名を中心とした調査団は、2006年3月に1ヵ月間ケニアに滞在し、約30件のVCTセンターを訪れ、施設の計画に関して「カウンセリング・ルームや待合室など」の平面計画や構成、仕様について実測・ヒアリング調査を行いました。「クライアント(受診者)の視線」からプライバシーや心理的安心感に対して現状の分析・評価を行い、幾つかのVCTセンターではプライバシーについてカウンセラーと話し合い、お金をかけずに出来る改善提案をし、共同で作業を行いました。例えば、カウンセリング・ルームでは、ドアの開閉は「外側・内側開き」や「右側・左側開き」などの選択肢がありますが、大切なのはドアが開いてもクライアントが外から簡単に見られないことです。それには、クライアントの座る位置を変えることや備え付けの家具を用いて視線を遮ることが有効です。また、カウンセリング・ルーム内にいるクライアントから窓越しに外の人が見えたと、座った状態で見えないように窓ガラスの下半分に紙を貼るとクライアントの安心が得られます。こうした机、椅子、棚などの家具の移動や窓などの工夫によって、お金をかけなくても容易に改善できる取り組みこそ、我々の経験や専門性が活かされた独自性のある活動といえます。帰国後、特徴的なVCTセンターでの活動を、施設の現状、特徴を分析、評価した上で、改善への教訓・提言をまとめ、報告書「ケニア VCT センター調査報告書[ファクトシート 事例編]」を作成しました。JICAで英・仏・西語に訳され活用されています。2007年3月にはガーナで同様の調査を実施し、現在報告書を作成中です。今後も他国のVCTセンターにおいて活動を継続するとともに、国別の比較の中から更なる展開を模索していきたいと考えております。

■ペルー耐震アドベ住宅工事 モニタリング報告

～ノンエンジニア耐震住宅の建設実態～(松崎志津子)

2006年7月から9月の79日間、独立行政法人建築研究所(以下、建研と略)からの業務委託により本会メンバー1名がペルー共和国リマ州ジャウジョ県ウアングスカル村のアドベ耐震モデル住宅工事のモニターとして派遣されました。アドベは土を成型して焼かず陰干したレンガで「日干しレンガ」と呼ばれています。南アメリカではアドベやラムドアースなどの土の家に3500万人近くが住んでいると言われていますが、その多くは技術者の支援なく居住者自らが家を建てており、その耐震性の低さは地震の度に多くの犠牲者を出してきました。2004年から2006年のJICA技術協力プロジェクト「低コスト耐震性住宅技術研修・普及」は、カーニャ(篠竹)を竹筋の要領で補強に使用した耐震アドベモデル住宅をリマ州他5カ所に住民参加方式で建設するもので、実施には現地NGOが当たりました。今回の派遣はそのプロジェクト住宅の工事状況を建研に調査・報告するもので、具体的には工事日報の作成、写真撮影、住民インタビュー、資料収集などが含まれ、ノンエンジニア住宅の実態を探ることが目的です。実際の活動は、建設地の村役場に住民と生活を共にしながら、というまさに協力隊OVならではの活動で、やる気にあふれた現地の人々との交流も実現しました。帰国後の2006年11月22・23日、世界銀行東京開発ラーニングセンターで開催された「地震防災のための東京国際ワークショップ(建研・防災科研・政策研究大学院大学・三重大学主催)」の5カ国TV会議でモニタリング結果を発表しました。なお、2007年8月15日ペルー沖で発生した地震はビスコヤチンチャのアドベ住宅群に大きな被害をもたらしましたが、このモデル住宅は仕上げの一部が剥落しただけで躯体には全く被害がありませんでした。2007年も同様に建研からの委託により、枠組みレンガ造住宅工事のモニタリングでペルーとインドネシアに1名ずつが派遣中です。

■総会・定例会の報告 (設楽知弘)

平成18年度(第5回)EVAA総会は8月26日に、広尾にあるJICA地球ひろばにて開催されました。役員と会員18人が参加し、事業報告、収入支出状況及び会計監査、財産目録、役員の改選、事業計画及び予算、その他および理事会報告、総会議事録署名人の選出の7つの議案に関して審議が行われました。総会後、懇親会にて松崎理事によるペルー耐震建築の開発に関する発表と質疑応答、昨年度の活動の総括と今後の展望に関しての意見交換が行われ、有意義な時間となりました。毎月第2金曜日19時より、JICA地球ひろばにてEVAA定例会が開催されております。会員の皆様はもちろんのこと、EVAAの活動に興味をお持ちの非会員の方のご参加も歓迎しております。定例会に関してはホームページで日時や場所が確認できます。

■イベントでの活動 ～参加報告と課題～(設楽知弘)

2007年は、都内で開催された3つのイベント(協力隊まつり、アフリカン・フェスタ、グローバル・フェスタ)に参加し、写真や図面を用いて本会の活動の展示や紹介をするとともに、会員が収集したアジア・アフリカの国々の民芸品の販売を通じて、様々な国籍の来場者と交流をはかることが出来ました。また、グローバル・フェスタでは、会場の取材に訪れていた静岡県ラジオ局からEVAAの活動内容や方針についてのインタビューを受け、先日それが放送されました。こうしたイベントでのPR活動に力を入れるのは勿論のこと、他の参加団体がやっている様々な取り組みを詳しく知り、評価することで技術者集団としての本会の独自性を更に明確にすることが、今後の活動における課題と感じました。

■EVAAのまとめた冊子の紹介 (設楽知弘)

これまで本会では活動の成果物として、以下の2冊の報告書を作成しました。青年海外協力隊員が携わった世界遺産(公益信託大成建設自然・歴史環境基金事業):2005年10月。ケニアVCTセンター調査報告書【ファクトシート 事例編】:2006年8月。これらの報告書は、ホームページで閲覧できますので、どうぞご覧下さい。

■定例会でのミニ・レクチャーの再開

2006年1月より滞っていた定例会での会員によるミニ・レクチャーを2007年10月より再開しました。今後は毎月継続して行いますので、興味がある方は奮ってご参加ください。(10から12月の発表は以下になります)
10月:清水研:PMによる開発援助プロジェクトの実践について
11月:濱野博:バングラデシュサイクロン災害高度危険地域の防災
12月:設楽知弘:グンダ・グンド修道院の修復プロジェクトと遺産修復学校の設立

■寄付のお願い

○中越沖地震の支援:中越沖地震の支援をお願いしてまいりましたが、大勢の会員の方から現在4万1千円のご寄付を頂いております。現地に送りましたブルーシート(100枚)+土嚢袋(2000枚)に対し、柏崎市長からお礼の手紙も頂きました。しかし、ブルーシートと土嚢袋の購入金額+送料の合計は6万6千円でしたので2万6千円の不足があります。皆様の寄付をお待ちしております。

○ガーナVCTセンター報告書作成への寄付:昨年は「ケニアVCTセンター調査報告書」の編集作業に対し、多くの方々からご寄付を頂き誠に有難うございました。皆様からのご寄付、編集作業の協力のおかげで立派な編集ができ、報告書を会員の皆様にお届けすることが出来ましたこと大変感謝しております。今年度は3から4月のガーナ国へEVAA会員3名が短期SVとして派遣され、VCTセンターの調査をしてまいりました。報告書の編集が現在終盤に取り掛かっております。この編集にも多くの経費がかかっておりますので、ケニア同様の寄付を皆様をお願い致したいと思っております。目標は20万円ですので、一口1万円(何口でも可)の寄付を募りたいと思います。お願い致します!

寄付の方法 郵便局での振込み、口座番号:00110-6-702770 加入者名:(特活)都市計画・建築関連OVの会 通信欄に「中越沖地震寄付」または「ガーナVCT寄付」とご記入願います。銀行の場合は、三井住友銀行 千代田営業部(001) 普通口座 2039696 名前:トクティエイリカツドウホウジン トシケイカクケンチュカンレン オーヴィーノカイ 振込み人の名前の後ろに「中越沖」または「ガーナ」をご記入ください。振込み後、事務局にメールまたはFAXをいただけますと幸いです。担当:松村
polepole-safari-ant@p00.itscom.net Fax 03-3239-8757

■ニュース・レター創刊の挨拶 (理事長 今村文明)

会発足から8年、NPO法人にして5年、今日まで皆様の支援や協力により、この会が少しずつ変化してきています。NPOとなり、活動目的を「情報収集・提供事業」、「サポート事業」、「調査・研究事業」、「提言活動事業」に焦点を当て日進月歩努力しています。これらの内容は過去の隊員報告書の情報収集とそのまとめ、愛・地球博への出展協力参加、世界遺産に携わった隊員の記録、エイズ対策の施設改修計画、途上国便所の普及活動、ペルーやインドネシアの耐震住宅建設、駒ヶ根や二本松での隊員候補生へのレクチャーなどなど、活動の領域や支援領域も広がっています。今後の活動もニュース・レターやホームページでその都度、お知らせする予定です。今のところ、資金や活動できる人員の問題もあり、順調になるまではしばらくかかります。皆さまにご協力を頂くとともに、新しい隊員OVの参加も募り、一步一步良い方向に進んで行きます。今後ともよろしくお願いいたします。



リニューアルしたホームページの表紙



隊員候補生の後方支援活動の様子



VCTセンター調査の様子(ガーナ)



ペルー耐震アドベ住宅工事の様子

EVAA ニュース・レターは年2回発行されます(次回は2008年6月予定)

連絡先 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-3-3 太陽ビル 602号 (株)スペース企画内 EVAA事務局

ホームページ <http://www.evaa-japan.org> 代表Eメール info@evaa-japan.org